



岸 和美 (きし かずみ)  
昭和62年 岡山県岡山市生まれ  
平成18年 岡山県立岡山一宮高校卒業  
平成22年 本学環境理工学部環境デザイン工学科卒業  
本学事務職員として採用

**ダブルダッチ**というスポーツをご存知でしょうか。向かいあった二人で2本のロープを回し、その中で跳び手がジャンプしたり、音楽に合わせてバック転などアクロバットを披露する競技です。1970年代に米国で広がり、現在、世界30カ国以上に普及。日本でも「ダブルダッチデライト」という全国大会が開かれています。



岸さんの魅力は「絶対ダブルダッチの魅力は」

今年、この大会に出場したが、今回ご紹介する岡山大学病院医事課の岸和美さんです。

## 岡山

風力発電に関心があり、「岡山が大好き」だったので、本学環境理工学部環境デザイン工学科に進みました。ダブルダッチとの出会いは1年生。「変わったスポーツをやりたかった」と「アットホームな感じ」が気に入って、ダブルダッチサークル「Jumping Cats」に入会しました。大学祭でパフォーマンスを披露していましたが、3年生の頃には「さらに上を目指して」社会人とチームを結成し、大会へのチャレンジを始めました。卒業後も社会人中心のサークル「ESJ」に参加。

全国大会出場を目標に今年4月から、毎週4〜5回、3時間の練習を重ねました。

大会出場に挑むチームは岸さんと社会人2名、「Jumping Cats」の学生2名（工学部・吉田光佑さん、赤田しおりさん）の5名で構成。「一枚一枚では意味がなく、五枚そろおうと意味がある」花札の役からとって「伍光」と命名しました。大会では、5名一組のチームが音楽に合わせて、3分以内で演技。技術の難度だけでなく、芸術点などさまざまな観点からの評価を受け、完成度を競います。「伍光」は衣装、音楽（工学部卒業生・瀬尾奨大さん作曲）、そしてアクロバットと「すべてに個性が溢れている」ところが見所で、みごとに地区予選を突破しました。10月17日に大阪市内で行われた全国大会には、さすがに全国レベルの猛者が多く、上位入賞は逃してしまいました。岸さんが「とても楽しかった」と語ります。そこまでのダブルダッチの魅力は「絶対

にひとりではできないところ。チームワークがなにより

重要なスポーツで、「チームのメンバーなどさまざまな人と仲良くなれるのが楽しい」そうです。そして「これから

も岡山のダブルダッチはすごいんだと全国のみんながわかってくれるようにがんばりたい」と抱負を語ってくれました。

## 本

年4月採用された

学事務職員に今に所属していたことから土木コンサルタントも考え

ましたが、就職活動を行う中で、結婚と同時に退職する女性が少ないという現実を知りました。「私はなんでもやりたいんです。働きたいし、家庭も持ちたい。だから、自分も一生働けて、教育現場の女性のキャリア支援に携われる」本学を受験しました。

## 現

在は電子カルテシステム関連の業務に従事し

ています。「二年目なのでまだまだわからないことだらけですが、利用者から「ありがとう」と感謝されたとき、とてもやりがいを感じるそうです。今後、やりたい仕事は、と聞くと「ダブルダッチで学んだのは、自分の気持ち次第でどんなことでもやり遂げられるということ。なんでもやってみたいですし、なんでもできます！」と弾んだ笑顔で答えてくれました。元氣いっぱいの岸さん、きっと本学を明るくしてくれることでしょう。

チーム「伍光」のメンバー達